

令和2年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第2号(5月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年4月23日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○5月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの増減	5月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
カンショ	① ナカジロシタバ	やや少	→	やや少	平年の発生量の推移 (→)
	② イモキバガ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↗	並	芯枯莖率の平年の発生量の推移 (↗)
	② メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯莖率の平年の発生量の推移 (↗)
	③ カンシャワタアブラムシ	並	—	—	
（温州みかん）	① かいよう病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② そうか病	やや多	↗	やや多	今後1か月の降水量が平年並の見込み
	③ アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	④ ミカンハモグリガ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	⑤ ハダニ類	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
（タネカキ）	① かいよう病	(発生なし)並	↗	並	今後1か月の降水量が平年並の見込み
	② そうか病	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③ アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	④ ミカンハモグリガ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	⑤ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
マンゴー	① ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○5月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠（基本は調査結果による）
		4月の発生量 （平年比）	4月からの増減	5月の発生量 （平年比）	その他、気象要因等あれば記載
へちま	① ベと病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗） 今後1か月の降水量が平年並の見込み
	② うどんこ病	（発生なし）並	↘	（発生なし）並	平年の発生量の推移（↘） 今後1か月の気温が平年並の見込み
	③ ハモグリバエ類	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘） 今後1か月の気温が平年並の見込み
	④ ヒメクロウリハムシ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘） 今後1か月の気温が平年並の見込み
	⑤ ミナミキイロアザミウマ	並	↘	並	つる先の平年の発生量の推移（↘） 今後1か月の気温が平年並の見込み
（ゴーヤー）	① 斑点病	多	↗	多	平年の発生量の推移（↗）
	② ミナミキイロアザミウマ	やや多	↘	やや多	つる先当たり成虫数が平年よりやや多いため 平年の発生量の推移（↘）
	③ アブラムシ類	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘）
（ピーマン）	① うどんこ病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
	② タバココナジラミ	多	→	多	平年の発生量の推移（→）
	② ハダニ類	（発生なし）並	→	並	平年の発生量の推移（→）
んさ（や） 平い 張ん げ	① タバココナジラミ	多	—	—	
	② ミナミキイロアザミウマ	並	—	—	

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとらきび	ツマジロクサヨトウ	4月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されているため、定植時に粒剤の株元散布する。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	黒穂病	・例年4月頃から発生が見られ、5～6月に多くなる。 ・胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。 ・発病は場やその隣接地から採苗しない。 ・新植での発病は少ないが、株出し回数が多くなるほど発病が多くなる。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。 せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

令和2年度 宮古群島 病害虫発生予報 第2号(5月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年4月23日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○5月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの増減	5月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)
	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)
マンゴー	① ハダニ類	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
とうがん	① うどんこ病	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
	② ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年のつる先の発生量の推移 (→)
	③ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	④ ハダニ類	(発生なし)並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
ゴーヤー(施設)	① うどんこ病	やや多	↗	やや多	平年の発病量の推移 (↗) 栽培後期にあたり草勢が低下するため
	② 斑点病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗) 栽培後期にあたり草勢が低下するため
	③ ミナミキイロアザミウマ	やや多	↗	やや多	平年の葉の発生量の推移 (↗)
	④ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○5月の発生予報つき (宮古群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠 (基本は調査結果による)
		4月の発生量 (平年比)	4月からの増減	5月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
オクラ	① うどんこ病	(発生なし)並	↗	並	今後1か月の気温が平年並か低いの見込み
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	④ チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)

○その他注意すべき病害虫 (宮古群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	4月の宮古島及び多良間島のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されているため、定植時に粒剤の株元散布する。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	黒穂病	<ul style="list-style-type: none"> ・例年4月頃から発生が見られ、5~6月に多くなる。 ・胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。 ・発病は場やその隣接地から採苗しない。 ・新植での発病は少ないが、株出し回数が多くなるほど発病が多くなる。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。 せん定枝や残さは感染源となるのでは場外へ持ち出し処分する。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5~10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3~4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

令和2年度 八重山群島 病害虫発生予報 第2号(5月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年4月23日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○5月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの増減	5月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
水稲	① スクミリンゴガイ	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	② 葉いもち病	並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)
	③ イネミスゾウムシ	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↓	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↓)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↓	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↓)
マンゴー	① ハダニ類	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移(→)
施設野菜	① うどんこ病	やや少	↑	やや少	平年の発生量の推移(↑)
	② 斑点病	やや多	↑	やや多	平年の発生量の推移(↑)
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	④ タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	⑤ アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
オクラ	① うどんこ病	多	↓	多	平年の発生量の推移(↓)
	③ フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	④ アブラムシ類	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	4月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲され、ほ場の調査でも幼虫が確認されているため、定植時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	黒穂病	<ul style="list-style-type: none"> ・例年4月頃から発生が見られ、6～7月に多くなる。 ・胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。 ・発病ほ場やその隣接地から採苗しない。 ・新植での発病は少ないが、株出し回数が多くなるほど発病が多くなる。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。 せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

向こう1か月の天候の見通し
沖縄地方（4月25日～5月24日）

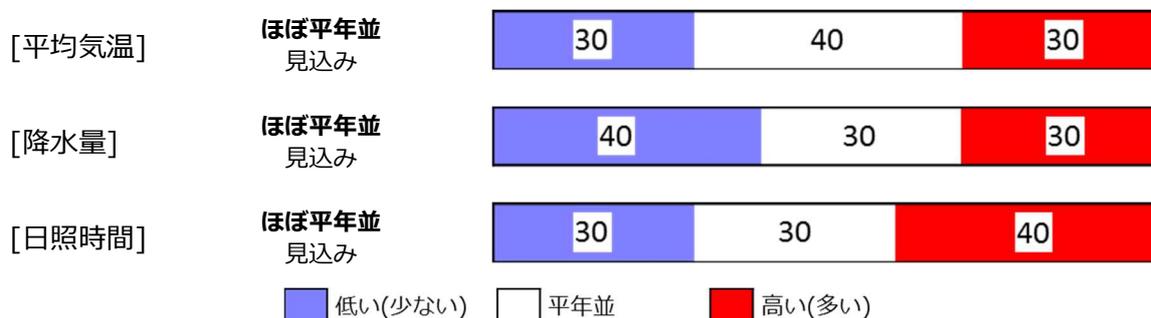
○ 気象予報のポイント

- 向こう1か月の天候は、期間の前半は天気は数日の周期で変わりますが、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温はほぼ平年並ですが、期間の前半は気温の変動が大きく、1週目はかなり低くなる見込みです。
- 向こう1か月の降水量、日照時間はほぼ平年並でしょう。



気象庁マスコットキャラクター
はれるん

○ 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

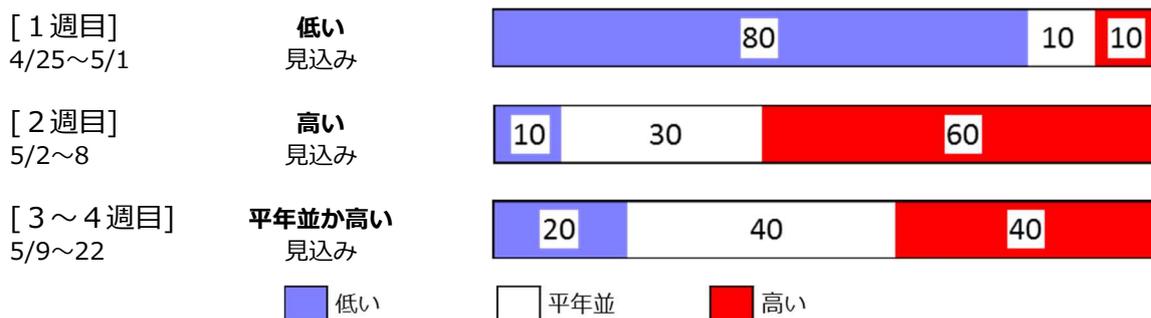


数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	平年差：-0.3～+0.4℃	平年比：70～110%	平年比：91～106%
那覇	23.2～23.8℃	111.0～200.2mm	114.7～141.5時間

○ 週別の平均気温



数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1週間）	平均気温（2週間）	平均気温（3～4週間）
沖縄地方	平年差：-0.5～+0.6℃	平年差：-0.5～+0.5℃	平年差：-0.2～+0.4℃
那覇	22.0～23.3℃	22.8～23.8℃	23.6～24.4℃

- ※ 沖縄地方の平年差（比）は、那覇・久米島・宮古島・石垣島・与那国島の5地点平均値です。
- ※ 平年並の範囲は、過去30年間（1981～2010年）の値から統計的に求めています。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>

本 所 〒902-0072 那覇市字真地123
TEL 098-886-3880 FAX 098-884-9119

宮古駐在 〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内)
TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474

八重山駐在 〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内)
TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157